令和２年度病害虫発生予察情報・注意報第２号
（果樹カメムシ類の多発生に注意）

令和２年７月６日
新潟県病害虫防除所

病害虫名　果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ）

１　対象作物　果樹（なし、もも、ぶどう、かき、その他）
２　対象地域　県内全域
３　発生量　　平年比多い
４　注意報の根拠
（１）県内各地に設置している予察灯およびフェロモントラップで、５月末からチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシの誘殺数が急増し平年に比べ多い。６月第５半旬までの累積誘殺数は、チャバネアオカメムシで平年の 1.6～1.7 倍、クサギカメムシで 2.6 倍、ツヤアオカメムシで 40.3～14.3 倍となっている。（図）
（２）６月下旬には、ももなどで果実の被害が確認されている。
（３）新潟地方気象台７月２日発表の１か月予報では、向こう１か月の気温は平年比高いと予想されており、果樹カメムシの活動（果樹園への移動侵入や加害活動）を助長すると推測される。

５　防除上の注意事項
（１）園地における発生状況はもとより、周辺のキリ、クワ等における寄生状況や街灯、人家への飛来状況を観察する。特に山林に近い園地では被害を受けやすいので十分注意する。
（２）果樹カメムシ類は、夜間を中心に活動するため、早朝や夕方の薬剤防除で効果が高い。
（３）果樹カメムシ類は、園地外から連続的・断続的に侵入してくるため、薬剤防除の実施後も園地をよく観察し、必要に応じて追加防除を実施する。
（４）なしやももの有袋栽培においても、果樹カメムシ類は袋の外から吸汁する場合があるので袋がけ後でも発生状況に注意する。
（５）ピレスロイド系殺虫剤は天敵類への影響が大きく、カイガラムシ、ハダニ等を増やすことがあるので、必要最小限の使用を心掛ける。

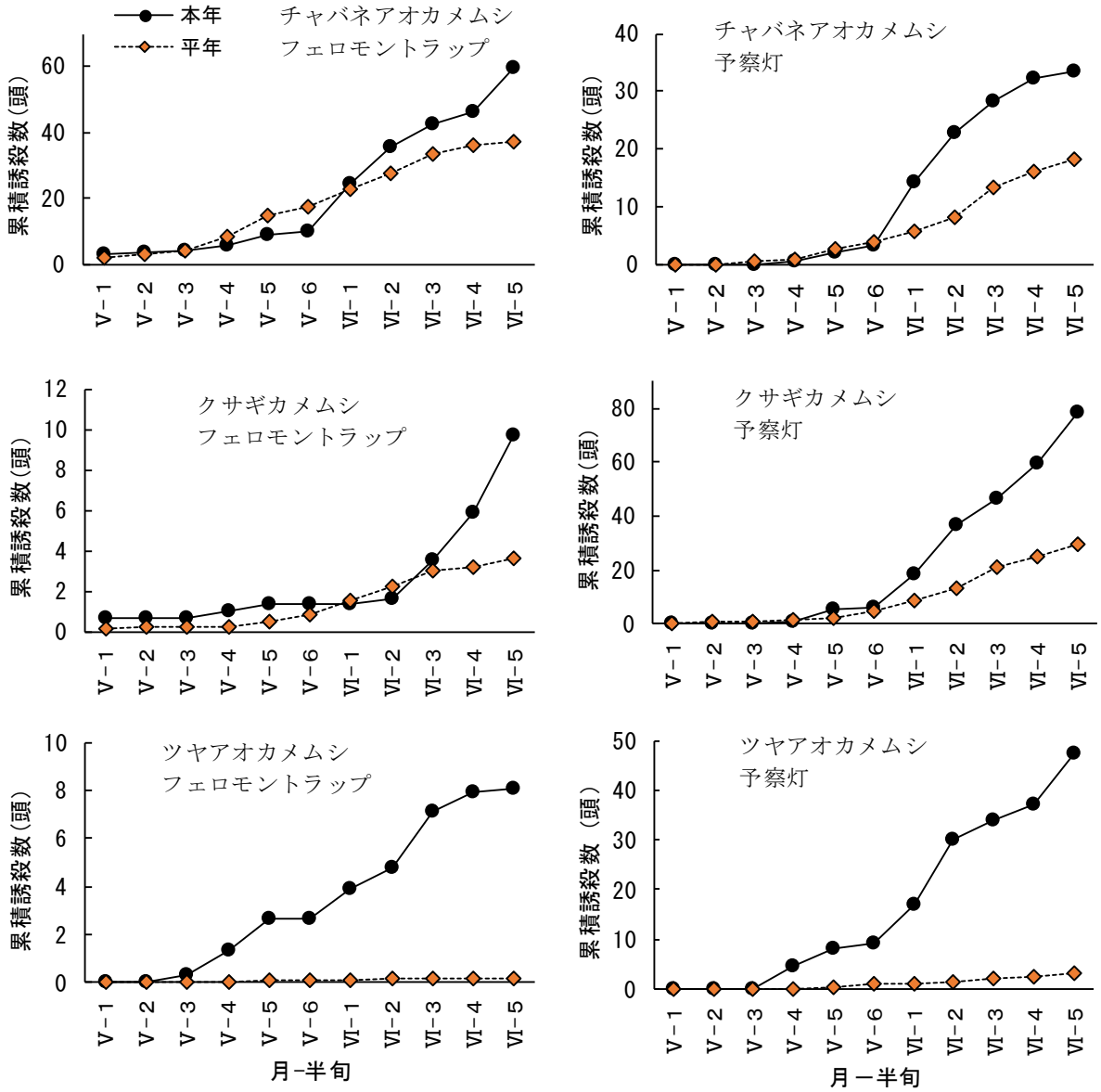

図　予察灯・フェロモントラップでの誘殺状況

（県内に設置した予察灯３～４カ所・フェロモントラップ３カ所の平均値）